



Title	語文 第6輯 編輯後記/投稿規定/奥付
Author(s)	
Citation	語文. 1952, 6
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68408
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

編輯後記

「語文」誕生以来二十ヶ月。その間六輯を
 発刊するを得た。読者投稿家諸氏の御支援に
 対しては深く感謝の意を表する次第である。

この間、日本は独立したとはいふものゝ、
 世情は安穩ならず、人心も激烈の度を加へて
 きた。文学する者にとって凡庸な時代ではな
 い。精神の、よほどの強さと高さが要請され
 る。さもなければ時勢は容赦なく人を圧倒し
 てしまふであらう。

本輯には平安朝に関するものを集めた。山
 脇氏は土左日記の読み方につき古来問題にな
 っているいくつかの本文について論ぜられ
 た。一語の読みをきめることも、一字の本文
 を定めることも、その背後にはスケールの大
 きい解釈が結びついてをり、それ故に一語の
 読みの問題が充分文学に価するものであるこ
 とが今さら思はれる。

俣淵氏は古今集が、中世仏教的な永遠憧憬
 の精神をほのみせながら、なほ現実的、肯定
 的な精神が指導的地位を占めてゐるため、古

代文学としての特質を保つてゐると論ぜられ
 て、同歌集の思想史的特徴を明かにせられ
 た。

田中氏は最近盛んに問題になつてゐる源氏
 物語論の経緯を分りよく紹介された。内証を
 基礎とする成立構成論争は単なるテクスト論
 を越えて、論者の読みの力にひかに関係し、
 論ずることその事がすでに文学であると思へ
 るところに価値がある。

小島博士の芭蕉論はいよいよ広く、いよ
 よ深く進められてゆく。

拙稿は作者清少納言の特徵的な精神機構を
 推定し、それを通して枕草子の解釈に一つの
 道を開かうと試みたもの、御叱正を乞ふ。

最近大阪の国文学界が各大学を中心にして研
 究に、見学に、講演に、相当の熱意を見せて
 きたことはうれしい。しかも有機的とまでは
 いなくとも、相互の研究家の間に親睦の気
 のたゞよつてゐることはさらに喜ばしい。か
 ういふ零閒気の中によき研究を結束させたい
 ものである。

われわれの「語文」も諸氏の投稿を歓迎す
 る。

(林)

投稿規定

- 直接購読者は投稿することが出来る。
- 原稿の内容は国語・国文学、国語教育に関するもの
 であること。分量は四百字詰原稿用紙二十枚以内と
 する。
- 原稿の送り先は「豊中市柴原、大阪大学文学部国文
 学研究室内、語文編輯委員」宛。
- 原稿の採否は編輯委員に一任のこと。
- 採用しなかつた原稿は返送料が添附してあれば返送
 に応ずる。
- 一括購読者が投稿する際には代表者から紹介せられ
 たい。
- ◆雑誌の寄贈・交換について
 ○雑誌の寄贈・交換は大阪府豊中市柴原 大阪大学文
 学部 国文学研究室宛に願いたい。
- ◆購読について
 ○購読希望者は発行所宛前金を添えて申込むこと。
 (送金は振替を利用されたい)
- 一部 四十円 送料 八円
 一年分(四回分) 百六十円(送料共)
- 五冊以上一括購読の時は一割引の上送料は不要とす
 る。

語文 第六輯

定価四十円
 送料 八円

昭和二十七年七月五日印刷
 昭和二十七年七月十日発行

大阪府豊中市柴原
 大阪大学文学部国文学研究室

発行所

大阪市南區横堀7の19

邦進社

電話 船場(25)1990 番
 振替 大阪 123135 番

編輯者 代表 小島 吉雄
 発行者 前田 春雄
 印刷所 寿印刷株式会社